

2021/9/1

関係各位

Far East Group

会長 大嶋 謙嗣

会報九月号 ルービックキューブく何でも道になる

目次

- ・道筋と基本を会得する
- ・各段階を辿る（実行）
- ・六面完成
- ・シームレス（継ぎ目を無くす）
- ・臨機応変な発想の転換
- ・応用展開

故あって、自粛期間中に部屋を整理していたら、懐かしいものを見つけた。

ルービックキューブ。今はスピードキューブと言うらしい。昔、一面を揃えては喜び、六面揃えたくて色々試したことを思い出した。シールを剥がして貼り直したり、ブロックをばらして組み直したり：。そして、必勝法という情報が出回り、試行錯誤を重ねて六面揃えることができるようになった。

夜中に触りながら、そんなことを懐かしく思い出した。

ただの遊びも、少し拘ると道になっていく。思い出しながらいじっていたら、十五分ほどで揃えることができるようになった。数日後、段々と指がキューブの動かし方を思い出し、六面揃えるまで二分を切るようになった。

道筋をつけてもう少し頑張ってしまったおうと決めた。

武の道をルービックキューブに応用展開してしまおう。遊びも真剣だ。

易経になぞらえて、六段階で示してみる。

へルービックキューブく

①道筋と基本を会得する

まず、どうすれば六面揃えることができるのか。まず敵（ルービックキューブ）の情報を得る。配色は、白・黄、赤・オレンジ、青・緑で計六色。一面は3×3×9個のキューブ。各面の真ん中をセンターキューブ（一個）、角をコーナーキューブ（四個）、それ以外をエッジキューブ（四個）と呼ぶ。六個のセンターキューブの位置関係は変わらない。つまり、白のセンターキューブの裏面は必ず黄色であり、赤の裏面は必ずオレンジ、青の裏面は必ず緑である。

次にルービックキューブの持ち方。これが疎かだと、指で動かす際に正確さやスピードに欠け、タイムが縮まらない。持ち方は非常に重要。持ち方の説明は割愛するけど。次は、キューブの動かし方。これも持ち方と同様に重要。また、キューブはなるべく持ち変えないこと。

キューブを知ること、持ち方、動かし方、なるべく持ち変えないこと：これらが基本となる。持ち方と基本の動かし方を、右手も左手も練習して指に覚えさせる。習うより慣れるのである。

次に、六面までの揃え方（道筋）だが、私のやり方は「下から上に揃える」である。どんなものでも土台（下）から揃えるのが道である。下から一段目を揃えるために、一番上にエッジキューブを揃える事から始める。

私はオレンジ色が好きなので、オレンジ色を一番下の土台とする。オレンジの反対側には赤になるので、ルービックキューブの上面のセンターキューブの色が赤になるように両手で持つ。

ここから六面完成までの道筋をつけていく。
まず、上面に下面のセンターキューブと同色（オレンジ）のエッジキューブを配置して十字を作る。エッジキューブの各側面の色と各側面のセンターキューブの色を合わせたら、四か所のエッジキューブを一八〇度回転させて下面に移動させる。これで、下面にオレンジの十字（センターキューブとエッジキューブ）ができる。そして、下面のコーナーキューブの色をオレンジに揃える。これで一段目（下面）と側面のセンターキューブが揃う。

次は二段目を揃える。一段目（下面）とセンターキューブは揃っているので、二段目のエッジキューブの色を揃える。

二段目まで揃えたら、次は上面に赤の十字（センターキューブとエッジキューブ）を作る。これは一段目を作るときに下面にオレンジの十字を作ったのと同様である。十字を作ったら、側面のセンターキューブの色と揃うように修正する。

上面の十字が揃ったら、上下逆さに持ち変える。つまり、まだコーナーキューブの揃っていない赤の面が一番下になり、今まで一番下にあったオレンジの面が上に来るようにする。

次は、下面の赤のコーナーキューブを揃える。これで六面完成。もし赤を揃えて他所の色がズレたら修正を加えて完成させる。

以上が道筋である。

②各段階を辿る（実行）

早速道筋に沿って丁寧にゆっくり動かして揃えていく。

①上面に下面のセンターキューブと同色のエッジキューブを配置して十字を作る。

②側面のセンターキューブの色を上面のエッジキューブの色と合わせてから、一八

○度回転させて下面に移動させる。

③ 下面のコーナーキューブを揃える。

④ 二段目のエッジキューブを揃える。

⑤ 上面に十字（センターキューブとエッジキューブ）を作り、側面のセンターキューブと揃える。

⑥ 上下逆さに持ち変えて、下面のコーナーキューブを揃える。

⑦ 必要に応じて最後の修正を加える。

この①～⑦までの道筋を自得していく。ここはゆっくり丁寧に。「持ち方、動かし方、持ち変えない」という基本を守って丁寧に、正確に。キューブの動きが正確でないといと六面完成しない。

③ 六面完成

①～⑦各段階のゴールを順番に積み重ねていくことで、六面が完成する。揃え方についての説明はここでは割愛するが、基本的には、連動した四つの動作を一セットとして、それを適切に行うことで揃う。

①～⑦を繰り返し行い、自分なりの気付きを反映させていく。

実はここから二つの道がある。

一つは、六面完成というゴールに達したのだから、これで満足し、もしくは傲慢になり、もしくは飽きてしまつて終了というここまでの道。この道に進む人はここで終了。お疲れ様。もう一つの道は、ここからさらに繰り返し繰り返し努力と工夫を凝らして先へ行く道。物事は、波や螺旋の形を取りながら、循環しながら進歩発展していくので、一周したら終わりでもよいが、もう少し極めるにはまだまだ道は長く続く。易経で言えば、ここは「三爻」まで上ってきた段階。実は、ここから先が面白く、そして深く高く広くなっていく。

④ シームレス（継ぎ目を無くす）

基本と、①～⑦という道筋が分かっていたら、もし途中で分からなくなったり間違えたりしても、基本と道筋に戻ればよいのだ。これは何事にも当てはまる。例えば、不安になったり焦ったり疲れたりしていた場合に失敗することが少なくないのは、基本や道筋を忘れて、判断を自分の感覚に頼ってしまうからである。不安や疲れがある場合、自分の感覚とは自分にとって都合のいいような答えを閃かせてしまうものである。正しさとは関係なく、自分に都合のいい判断を下してしまうのだ。だから、基本や道筋を持っていることは大切なのである。

さて、正確に①～⑦ができるようになったら、①②③④⑤⑥⑦と階段を一段ずつ上っていくのではなく、①～⑦が段差の継ぎ目のない一つの坂道であるかのように上っていく。少し先を見据えながら、動きを六面完成まで止めないことを目標にしてやってみる。

ここまできると、一々二分あれば六面を揃えられるようになっていく。

⑤ 臨機応変な発想の転換

先が見通せるようになり、各キューブの配置や色の関係を指が覚えるようになり、「次はどうするんだっけ？」と、途中で思考も動きも止まることが無くなる。ここで改めて「持ち方や動かし方」という基本の精度が大切になる。自己流の癖がついてしまつと、スピードが上がらないか、動きがぎこちなくなる。結果として、六面揃えるのがかえって遅くなつたり、ケアレスミスが続いてつまらなくなつたりする。基本の動きとなるかどうかの一つの基準は、その動きに無理・無駄・ムラがないかどうかである。

道の面白いところは、正確さとスピードを極めていっても、いずれ行き詰まるようになっていくところである。これが「守破離」の「守」の限界であり、同時に、「破」へ移行する契機となるのである。

正確さとスピードを極めた先に行き詰まるのであれば、そこから先はどうするのか。今まで辿ってきた道筋を一端忘れ、そこから己の知恵と工夫で他の道筋という支流を生み出すのだ。ここが、腕の見せ所、己の個性の発揮のしどころである。発想を変えてもう一段上に行く。ヒントは「守」を一端忘れるということだ。

ここは誰かに教えてもらうものではない。自ら道を伸ばす。知恵と工夫と強い心を武器に鍛錬を続けて自得していくしかない。

⑥ 応用展開

たかがルービックキューブ、されどルービックキューブである。ルービックキューブの道だって日常生活や事業や学問や趣味に応用展開できてこそ、「離」の体現。道の人、仁義の人である。

美味い店やお洒落について語るのもいいけど、強さや優しさや強靱な生命力、そして道についても語ってくれよ。そして色々な想いを形に。

守破離で言えば、①〜④までが「守」。⑤が「破」。そして⑥が「離」である。どんな道でもそうだが、「破」に進むことができる人はそんなに多くない。まして「離」を体現していきける人はとても少ない。

私が今歩いている場所は④から⑤の過渡期あたりだろうか。個性を発揮して「守」から「破」へと飛躍できるかどうかの境目である。今のタイムトライアルでは一分を切るが、そろそろ「守」の限界、行き詰まりを感じている。

ルービックキューブ（スピードキューブ）は懐かしい遊びだが、取り組み方次第で楽しくなるし、道にもなり得る。

そして、事業でも学問でも趣味でも遊びでも、道として取り組めば、入口が違つと

いうだけで、深く入っていけばどれも同じ道である。道とは、挑むものであり、様々に応用が利くものであり、想いを形にするものである。

物事に取り組んで、それを成長発展の段階としての道と捉えると面白くなってくる。「易経」に負うところが大きいが、

- ① 志を立て
 - ② 鍛錬努力を重ね
 - ③ 少し傲慢になって失敗し
 - ④ 失敗から学び、謙虚さを取り戻して努力を重ね
 - ⑤ 力を十分に発揮して志を成し遂げ
 - ⑥ 次世代へ継承し、次の挑戦（志）のための準備にかかる
- このような、循環・流れ・道筋をどこまでも作って伸ばしていこうとすることができからである。

基本を踏まえ、道に沿ってひとりひとりが持つ個性に合わせて自分を伸ばしていけば、知恵と工夫と意志による「自己の実現、他の共栄」の道は、死ぬまで発展させていくことができる。状況が困難に思えるほど、相手が強敵に思えるほど、自分の知恵と工夫と意志が試され、より自分を強靱にしなやかにしていくことができる。どう対処するかは、その時の自分次第である。それが楽しみでもある。だから、修羅場に出遭うと心のどこかが喜んでいいる。そして相手や状況にリスペクトをもって真摯に立ち向かい、自己と他己を一体感をもって一円融合させて己の意志で物事を前に通していくのだ。

そうなれば、判断の基準は「勝ち負け」ではない。

道の上に立ち、「プロとして行動したか」「男として行動したか」それだけである。

今月も健康と健闘を。